

人の手で輝き続ける

日本遺産

有松絞り

絞りで表現された虎

雪花絞り



青海波

く



染色



立涌文



麻の葉文

匠の技

1975年に国の伝統工芸品に指定された有松絞りは、一つ一つが職人の手仕事で作られ、独特の模様と風合いをもつ。江戸時代から分業制で多くの人たちが長い時間をかけて受け継いできた伝統技法は、100種類以上にも及ぶ。この有松の文化と伝統が評価され、令和元年5月に「**日本遺産**」に認定された。

世界の「shibori」

有松・鳴海会館では、絞り体験が行われており、藍色に染まった「**雪花絞り**」が外国人観光客から好評である。現在では、ドイツブランドを出し、有松絞りの素晴らしさを海外に発信している。

藍染めが風にゆれる町

「**有松絞り**」は、約400年前の江戸時代初期1608年に竹田庄九郎らによって誕生した。尾張藩が有松絞りを藩の特産品として保護し、旅人が土産にと買い求め、これが街道一の名産品になったといわれている。400年たった今でも進化を続け、現在では約70種類もの技法が受け継がれている。6月に行われる「**絞り祭り**」や「**江戸情緒漂う街並み**」が、有松の宝である。

人目鹿の子

